

平成 21 年 9 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 21 年 9 月 24 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9816

今月のトピックス

インフルエンザの報告が引き続き増加しています。都筑区では、注意報レベルを超えた数値となっています。今後の発生動向に注意が必要です。

新型インフルエンザウイルスによるインフルエンザ脳症の報告がありました。

8月10日から9月7日までの病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況では、検出された29件すべてAH1pdmでした。

平成 21 年 8 月 10 日から平成 21 年 9 月 13 日まで(平成 21 年第 33 週から第 37 週まで。ただし、性感染症については平成 21 年 8 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 21 年 週 - 月日対照表

第 33 週	8 月 10 ~ 16 日
第 34 週	8 月 17 ~ 23 日
第 35 週	8 月 24 ~ 30 日
第 36 週	8 月 31 ~ 9 月 6 日
第 37 週	9 月 7 ~ 13 日

全数把握の対象

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:9月の届出数は、18日現在で2件です。感染経路は不明でした。当市での発生件数は少なかったのですが、厚生労働省から飲食店チェーンでの肉の取り扱いについて、緊急情報が出ていますのでご覧ください。

「腸管出血性大腸菌 O157 食中毒の発生について」

<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/kinkyu/0914-1.html>

<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/kinkyu/0908-1.html>

啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」 <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf> も合わせてご利用ください。

- 2 **レジオネラ症**:9月は18日現在で3件の届出がありました。1月からの報告数は13件となり、昨年よりは減少していますが、2007年より市内では増加傾向にあります(表参照)。レジオネラは、市中肺炎の起因菌として重要ですが、過去に、ジャグジーや入浴施設、冷却塔等での集団感染も報告されています。診断された際には、浴槽の種類や温泉、銭湯等の利用状況等を確認する事も必要であると思われます。

レジオネラ症の報告数の推移(2001年~2009年37週) 2009年は37週まで

年	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
全国	86	167	147	160	281	518	668	886	491
横浜市	0	3	2	1	8	7	28	32	13

全国のレジオネラ症の報告の傾向は <http://idsc.nih.gov/iasr/29/346/tpc346-j.html> をご覧ください。

- 3 **麻疹**:2件の届出がありました。引き続き、対象児に対して予防接種の勧奨をお願いいたします。
- 4 **急性脳炎**:1件の届出がありました。11歳男児に見られた、38度以上の発熱、痙攣、意識障害を伴った新型インフルエンザウイルスによるインフルエンザ脳症です。

なお、平成 15 年 11 月 5 日より、急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)は、定点把握対象疾患から全数把握対象疾患となっています。インフルエンザ脳症を診断した場合、全ての医療機関は急性脳炎としての届出をお願いします。

小児における新型インフルエンザの臨床像は、感染症情報センターの情報をご覧ください。

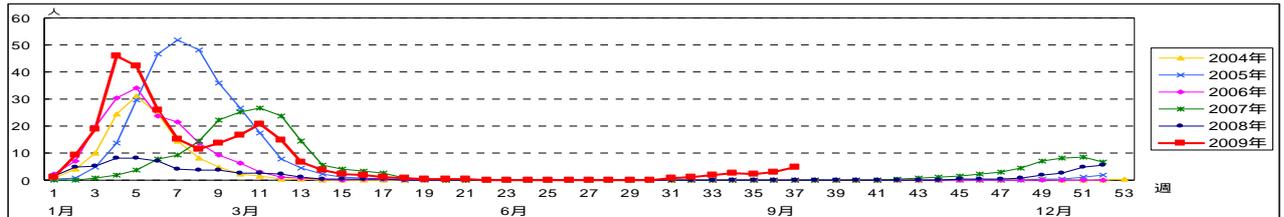
http://idsc.nih.gov/disease/swine_influenza/2009idsc/children0915.html

定点把握の対象

1 **インフルエンザ**:第 32 週から定点あたりの報告数 1 を超えていましたが、その後漸増し、第 37 週には、定点あたりの報告数が 4.97 となっています。第 37 週の迅速診断キットの報告では、A 型が 590 件、B 型が 9 件、A、B とも陽性が 3 件となっています。年齢層では 20 歳未満に多く感染が見られます。行政区別では、都筑区が 10.14 と、注意報レベルを超えています。磯子区 9.67、栄区 7.20、港南区 7.00 と続きます。川崎市は 3.57、神奈川県(横浜、川崎を除く、以下県域)では、3.04、全国では 3.21 といずれも横浜より低い値です。

8 月 10 日から 9 月 7 日までの病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況では、検出された 29 件すべて AH1pdm でした。

横浜市における定点あたりのインフルエンザ報告数



年齢層別 5 週集計

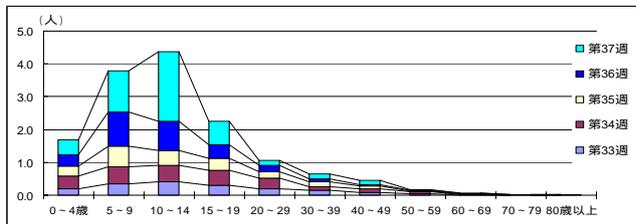
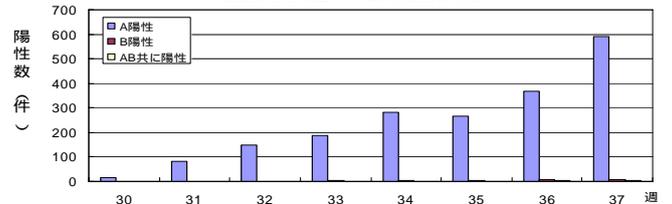


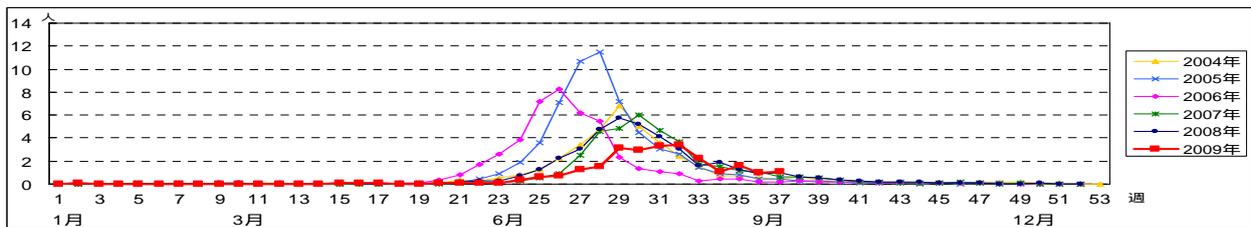
図3 横浜市内の患者定点医療機関における迅速診断用検査キットによる型別の判定



2 **手足口病**:第 30 週に定点あたり 3.00 とピークを迎えましたが、第 37 週には定点あたり 0.73 と減少しています。川崎市は 0.65、神奈川県県域は 0.40、全国は 0.89 でした。

3 **ヘルパンギーナ**:第 37 週では定点あたり 1.06 と減少しましたが、行政区別では、緑区が 5.75 と、引き続き高い値です。続く泉区は 2.75、磯子区は 2.25 です。川崎市では、0.91、神奈川県県域では 1.05、全国では 1.04 でした。

横浜市における定点あたりのヘルパンギーナ報告数



4 **性感染症**:性感染症は、診療科でみると産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

8 月は、性器クラミジア感染症の報告数は男性 22 件、女性 17 件で、15 歳から 40 歳代の年齢分布でしたが、性器ヘルペス感染症は、男性 9 例、女性 18 例で、20 歳から 70 歳以上と、幅広い年齢層に見られています。尖圭コンジローマは男性 3 例、女性 3 例、淋菌感染症は男性 19 例、女性 2 例でした。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>